つ な ぐ だ よ り

発行　２０２５年　１０月
発行人　地域学校協働活動推進員
後藤弥生

木々の葉っぱも少しずつ色づきはじめ、空気もようやく秋らしくなってきましたね。10 月は地域でもイベントが盛りだくさん。子どもたちは運動会に向けての練習から本番まで、笑顔と真剣な表情でがんばっていました。地域でもたくさんの行事があり、まち全体がにぎやかに感じられた方も多いのではないでしょうか。10 月、11 月は地域がいちばん活気づく季節かもしれません。そんな中で、久しぶりに顔を合わせて話したり、新しい人とつながったり、いろんな場面で“つながり”を感じることが増えたように思います。木の実や野菜、生きものたちが元気に動き出すように、私たち人も自然と活動的になる季節ですね。一年の折り返しを迎えるこの時期。4 月からの歩みを振り返りながら、これからの時間をどう過ごしていこうか、子どもたちや地域のみなさんとどう関わっていこうか、そんなことを考えるタイミングでもあるのかなと思います。季節の移ろいとともに、また新しい「つながり」が生まれていくことを願っています。

▼　10. 18　祖父江地区運動会

先日の祖父江小学校運動会の午後から行われた地区運動会は、昨年雨で開催されなかった分「今年こそは楽しもう」という気持ちが地区全体にあふれていました。祖父江校区体育振興会の方々が新しい種目をたくさん考えてくださり、お年寄りから５０代以上の方の徒競走、父、母対抗綱引きなど、どの世代も輝けるような内容になっていました。会場には笑顔がいっぱいで、生き生きとした姿が印象的でした。まさに誰もが自然に支えあう“インクルーシブ”な地域の姿だったと思います。

諏訪会長の挨拶

リレー

綱引き

▼　10. 28　第2回祖父江小学校運営協議会

第２回祖父江小学校運営協議会が開催され、教育活動や地域学校協働活動についての話し合いが行われました。まず授業参観が行われ、子どもたちの学ぶ姿を見学した後、教育活動に関するアンケート結果や学校の教育環境について、委員の皆さんで意見を交わしました。会議では活発な意見交換があり、建設的で意義のある時間となりました。

運営協議会のメンバーは祖父江地区まちづくり推進協議会、祖父江小学校区まちづくり推進協議会、体育振興会、親児の会、ＰＴＡ、小学校、地域学校協働活動推進員の１３名で構成されています。学校側からは校長先生や教頭先生、教職員も参加し、「子供たちのよりよい学びと安全のためになにができるか」を共に考えています。

地域と学校が力を合わせ、祖父江小学校をより良い場にしていくための大切な会議となりました。

時を超えて・・・

倉庫を掃除していたら、こんなものを見つけました。それは、昭和４年の祖父江小学校（当時名称：愛知県中島郡祖父江第一尋常小学校）の「児童手帳」。ページをめくると当時の子どもたちへの心得がずらりと並んでいました。一部抜粋します。

・*第一、常に教育勅語の趣を守り先生や父兄の言いつけはよく守りなさい。*

・*行きかえりで通行の妨げをしたり作物を荒らしたりまたは悪戯をしてはなりません。*

・*夕方薄暗いところで書物を読み、字を書かぬ様にしなさい*

・*父母に物をねだってはいけません*

と思わずくすっと笑ってしまうような心得が書いてあり今の時代にもし「児童手帳」があったらどんなことが書かれているのでしょうか。時を超えて、当時の祖父江小学校の児童の生き生きとした姿が目に浮かんできました。

※興味のある方、貸し出しします。

コラム～インクルーシブな地域を目指して～

「グレーの子」という言葉を耳にすることがあります。白でもなく、黒でもなく、そのあいだにいる子。その子を育てる親御さんと、そうでない家庭とでは、きっと見えている景色が違うのだろうと思います。日々の小さな困りごと、まわりの目、理解されにくい思い。お互いに言葉にしづらい気持ちを抱えたまま、そっと距離を取ってしまうこともあるかもしれません。
けれど、その距離は、自分を守るための静かな選択でもあります。

正直に言うと、このテーマを書くことをとても迷いました。
「グレーの子」という言葉が、誰かを傷つけてしまうかもしれないと思ったからです。
親御さんたちはたくさん悩み、迷い、人には見せないところで努力を重ねてこられたと思います。そして、実は私自身も、子育ての中で悩みや迷いを抱えたことがありました。そのときの気持ちを思い出すと、「誰かにわかってほしい」と願う一方で、「わかってもらえなくてもいい」と心を閉ざした瞬間があったことも覚えています。

活動の中で出会った子どもたちは、みんな本当に生き生きとしていて、個性豊かで、あたたかくて、まっすぐで。“グレー”という言葉ではとても表しきれない輝きを放っていました。
このコラムが誰かを分けるためではなく、「わかり合いたい」という小さな願いを伝えるものであればと、そんな思いで、静かに書きました。

家族の経験を通して、インクルーシブという考え方に興味を持ちました。子どもたちの声や感情に寄り添いながら「共に生きる」とは何かを地域全体で考えるきっかけにしたいと、この連載を始めました。

ご意見、ご感想等ございましたら yayoijci@yahoo.co.jp までお寄せください。

※１１月号は、芋ほり体験、銀杏学習、３世代ふれあい学習、ets..でお届けします。